

☆☆☆2019富士宮地区労福協☆☆☆

役員視察研修の報告について

■視察研修の目的

昨年「環境問題」をテーマに、行政との関係づくりやエネルギーの現状を取り巻く環境を知ることにより、労福協が現在行っている活動の幅を広げていく。

■視察日程と参加者

- ◇2019年10月6日（日）
～7日（月）の2日間
- ◇富士宮地区労福協役員10名

■視察行程

- ◇10/6（日）ヤマトグループ羽田クロノゲート（東京都大田区）
鉄道博物館（埼玉県さいたま市）
- ◇10/7（月）石坂産業（埼玉県入間郡）

■参加役員から研修を終えての感想

富士宮地区労福協役職	所属団体・役職	氏名
会長	テルモ労組・中央執行委員長	小林 純一
<p>今回の視察研修では自身の立場をいろいろと切替えながら、労福協役員として、企業人、ユーザー視点で研修を捉えてみた。まず、最初にクロネコヤマト「羽田クロノゲート」を見学した。ここは巨大物流ターミナルを見学したが、一般の方、子供連れも多く、観光や遊び場感覚での見学どころであった。特に技術的に目を引くものはなく、コンベアを組み合わせで従来よく使用されているモーター、搬送ベルト、ベアリング、カメラでの監視の構成で、一般的な製造現場で多用されているものであった。それよりも、大きく長いあのコンベアの保守、メンテをどの様におこなっているのか。そのことの見学ができれば参考になったかもしれない。ものづくりの目線では、そのように感じた。また子供が楽しめるような施設である為、企業人、または労福協役員としても物足りなさを感じた。それ以外に、次から次へと見学者が訪れることもあり、タイムシフトで見学者をさばいており、見学者対応社員は専門業務としており、見学者の接し方は、毎日、毎回同じことの繰り返しで、作業化してしまっていた。早く見学者を送り出し、次を対応したいという感覚を受けた。自分が商品の様に扱われている感じもして良い印象は受けなかった。言い方は悪いが流石、物流会社、次から次に物を流すのは上手であった。此方としては一期一会の部分もあるので違和感は持った。ただし、企業としては、ここまで人・物・金を投資して企業見学に力を入れるのを考えた時、宅配便ユーザーが一般人であり、その人たちをターゲットし企業イメージやサービスクォリティーの高さを見せることは効果的であると思えた。テレビCMとは違い、ここに来て見学することにより、受けるヤマトに対する企業インパクトは大きいと思えた。</p> <p>石坂産業の視察ではイメージしていた中小企業の社会貢献活動の域を超えており、労福協として視察する上ではスケール感が大きすぎて参考になるかと言えば難しさはあった。事業としては、住宅を壊して出た産業廃棄物を再生（リサイクル、リユース）することで経営基盤としているが、そのリサイクル</p>		

率が98%と驚くほど高く、拘って環境維持に努めていた。また、産廃業者と言えば、一般的には良いイメージとは言えず(煙、粉塵、騒音、におい、不法投棄)過去には近隣住民から石坂産業も事業に対して反対運動を起こされていたようだが、現在はイメージチェンジが図られ、石坂産業イコール環境にやさしい、自然保護に努めている企業というようなイメージが定着し、産廃業者は「悪」という一般論はこの会社には存在していないし、イメージ戦略は大成功という結果となっていた。社員教育も徹底されており、出会う社員総てが大きな声で気持ちの良い挨拶を返してくれる。とても良い企業であるという印象を与えてくれた。ただ、労働組合役員としては「労働安全」「労働環境」は自社と比べて20年以上遅れていると感じた。プールフープの考え方が一切ないこと、見学室の近くで重機が動作している。重機のすぐ横を人が作業している。不安全ではないかと質問すると「あの様に見えて結構大丈夫なんですよ、ベテランですから」この回答は驚いた。人は間違える。ミスをするものであり、ミスをした時に重大事故に繋がらないように最善の手段や方法にしておくことが労働安全では重要であり、鉄則である。それができていないところに驚きを感じた。また5Sについてもプレゼン(説明)の中や企業紹介パンフレットにも掲載があったが、企業で5S担当(業務と)している者としては、2Sの整理・整頓の「整理」も出来ていない。5Sについては良く理解していないなと感じた。5Sを企業の売りにするには、まだ早いとも感じた。

最後に今回の視察では前段述べたように、自身の役割ごとに視察ができたことに面白味があった。総じて言えるのは、その企業の企業価値を高めるために誰に何を見せるのかを考えて工場見学を設定し経営をしていた。それにより企業価値を高め企業収益に繋げており、今までの様な「良いものをより安く」つくれば儲かるだけではない。イメージ戦略で社会の中で、どのような形(イメージ)で企業が受け入れられるのかを考えて投資をしている。この様な手段でも企業収益を上げられるのだということを実践している企業視察ができた。

副会長	富士宮市職組・執行委員長	伊藤 吉幸
-----	--------------	-------

石坂産業(株)は家屋解体により発生する産業廃棄物の中間処理を行う事業者です。
過去に起こった環境汚染に対する地域住民の反対運動から、すべての作業を建物内に収め外に粉塵を流出させない施設の整備や、毎日のように工場見学を受け入れることにより、第三者に「見せる」「見られる」を意識し、5Sに創意工夫と安全(safety)を加えた7S運動が行われています。
さらに、自然や地域との共生を図るため、専門の従業員を配置し、管理敷地の87%にあたる約15haの森林整備を行い、地域住民や観光客が自由に利用できる交流プラザの運営や家族で遊べる自然のテーマパーク作り等、一企業の地域貢献にかける投資の大きさに驚かされました。
工場視察の中で、最終処分場の受入れ量の問題から、搬入された廃棄物の98%を材料製品等にリサイクルしており、そのために、重機を使って篩に掛け、その後、手作業により徹底的に選別しているというお話があり、私たちゴミを出す者ができる取組みとして、改めて「なるべくゴミを出さないこと」と「ゴミを分別すること」の大切さを学びました。

副会長	富士フィルム労組・支部長	鈴木 秀典
-----	--------------	-------

【羽田クロノゲート】
ヤマト運輸がお客様への感謝を伝えるために作った施設ということもあり、見せ方やヒストリーを感じられる造りになっていると感じた。ヤマト運輸という宅急便のイメージが強いが、客貨混載や物流と相性のより付加価値の提供(医療機器洗浄・修理等)に見られるように、時代の変化に対応し、人々の暮らしや企業を支える姿勢や施策が非常に印象的であった。

【石坂産業(三富今昔村)】
冒頭の会社説明から工場見学、三富今昔村見学の全てにおいて、人に見られることを前提に構成されており、産廃業者のイメージを大幅に変える、非常に有益な見学となった。根幹には周辺地域や人合つての企業・活動という考え方があり、我々の活動においても考えなければならない重要な点だと再認識した。通常であれば工場の方だけを運営していけばいいのかもしれないが、社会貢献を広く捉え、森再生にも事業を展開している点は視座が高く、今後活動していく上で大きな刺激となった。

事務局長	ニッピ労組・中央執行委員長	飯室 憲一
------	---------------	-------

今回の研修のメインである埼玉県の産廃処理施設石坂産業では、住宅廃材処理から里山再生するという、普通の考え方では繋がらない企業の実態を拝見させていただきました。全国各地で起こる産廃処理施設の反対運動が過去にはこの地でもあったが、施設をオープンにし地元の理解を得るまでの様々な活動や、住宅廃材を再利用した公園やレストラン・カフェ・ファームが展開されていることも、産廃業とは思えない驚きでありました。しかし一番の驚きは本来であれば人に見られたくない過酷な産廃工場に勤務する社員が埃まみれの中での我々に対する気持ちのいい挨拶であった。我々の会社も地域に愛される活動を今以上に展開すること、そして気持ちのいい挨拶は相手も気持ちいいものだと実感しました。しかし現在建てられている住宅については、今までの材料と違い化学製品なども使用されていることから、その住宅が解体される時には新たな処理の問題も出てくると思われます。快適な暮らしの裏側にはいつもゴミや限られた資源の問題がいつの時代になっても関わってきます。我々は里山再生として田貫湖周辺の労金の森を間伐していますが、森の再生の実感や伐採した木の再生、またこれからの環境整備についても多くの市民に伝えていく事が、今後も労福協活動の重要なテーマになっていくでしょう。

幹事	ホールアース互助会・事務局長	山崎 宏
----	----------------	------

日頃から「物流」に支えられて暮らしているはずですが、私が認識している範囲はおそらく限定的で、ましてや物の流れ全体を深く考えたりする機会もほとんどありません。「羽田クロノゲート」では、荷物が次々に流れていく様子を見ることができるとともに、その効率性とセキュリティを担保する最新の設備に触れることができました。また、「石坂産業／三富今昔村」では、案内役のスタッフの優れたガイドによって、地域とのデリケートな関係性を維持しながら産業廃棄物のリサイクルを徹底的に進める企業マインドが伝わってきました。両社共通で印象的だったのは、ステークホルダーに「現場を見せる」ことで自らの価値を高めようとしている点でした。「見せる」ことに舵を切ると、「見せ方」を研ぎ澄まさなければならず、相応のコストがかかるはずですが、あえてそこを飛び越えることにチャレンジしている両社からは、組織人として気付かされる事が多く、非常に有意義でした。

幹事	日本プラスト労組・執行委員長	日笠 傑
----	----------------	------

視察研修は初めてということもあり、とても有意義で貴重な視察ができたことをうれしく思います。視察場所は、ヤマトHDが運営しています『羽田クロノゲート』、大宮の『鉄道博物館』、小江戸と言われる『川越の文化財巡り』、狭山の『石坂産業(株)、三富今昔村』の視察を行いました。『羽田クロノゲート』では、商品の仕分け設備、システムはセキュリティを扱う会社ならではのきめ細やかな運営がされていたと思います。時には早く、時には遅く、荷物がぶつからない様にベルトコンベアーの一つ一つのセルに送り出すシステムは圧巻であり、かつ優しさあふれるシステムでした。また、物流ターミナルとしてトラックだけではなく、空や海、鉄道を使用しての輸送を使用して家電修理や手術器具のレンタルから通関業務まで、物流にかかわる付加価値の一大ターミナルとして創業100年の節目を見学できました。『石坂産業(株)、三富今昔村』では、家を壊す時に出る産業廃棄物を使用し、里山再興のために産業、官僚、学生、地元、マスコミなどとコラボしながらの事業運営は、働く職場の明るさや笑顔の絶えない職場作りに、女性社長ならではの気配りが感じられました。産廃業者としての主事業だけではなく、そこからの処理済の副産物を使用してのリサイクル、またいかに再生率100%に向けての里山作りをし、汚い職場から、見られる職場への再生も会社や地域でも役に立てることばかりでした。最後に、今回の視察で他産別の労組の親睦ができ、労福協、会社や自労組の運営などで生かしていければと思います。

幹事	富士フィルム静岡社員会・執行委員	成田 史彰
----	------------------	-------

【クロネコヤマト 羽田クロノゲート】
 クロネコヤマトの企業イメージは、子供の頃より配送業を行っている企業のイメージが強く、羽田クロノゲートも空港などが近くにあり、利便を活かした巨大集配センターと思い、見学させて頂きました。しかし、実態は『集配業務 + バリューを生み出す』企業でした。どの企業も昔ながらの事業を続けていては、ほかの企業と画一化になってしまうので、今まで培った技術に付加価値(バリュー)をつけて、強みを活かしつつ汎用性を上げる活動をしていると感じました。

【石坂産業株式会社】

見学が始まり説明を受けると、過去に所沢のダイオキシン問題でほうれん草が風評被害にあい、原因が石坂産業にあると、立ち退きを住民から言われたとの話を聞き驚きでした。しかし、煙突を取り除き、焼却→リサイクルと考えを反転（ネットでは270°と表現）させ、活動を続けていく事で地域住民との関係も回復し、今では夫婦や親子で務めるような魅力的な会社になったことが分かりました。

【研修を通じて】

両企業とも目線を変えた事で、大きな変化を生み出しており、私たちの社員会や事業活動にも取り入れてこうと思います。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

幹事（若者の会会長）

富士フィルム静岡社員会

中野 貴

羽田クロノゲートは、陸/空/海を結ぶ、日本最大級のヤマトグループ大型複合物流拠点で、歴史や最新鋭の設備を見られたが、そのサービスには驚いた。「付加価値」をキーワードに、配送以外に修理・メンテナンス、レンタル品の洗浄等でスピード配送を実現。配送形態も多様化しており、お馴染みのクール宅急便以外にも、過疎化が進む地域へ路面バスでの客荷混載等、顧客の事を想ったサービスを提供している。私は工場勤務で、なかなかユーザーの声を聞きにくい、そこに耳を傾ける事が、更なる企業の可能性と、より豊かな社会への貢献となると実感した。

石坂産業㈱は、建築廃材を98%資源循環する工場を所有する産業廃棄処理の会社。産業廃棄処理というと、正直あまり綺麗なイメージが無かったが、石坂産業㈱は、管理敷地区分8割が緑地帯や環境対策施設で、女性視点も多く取り入れられた美しい企業で、地域住民の方々から理解も得ていた。

自分なら廃棄なのだから「仕方ない」と考えてしまいそうだが、固定観念に縛られず、環境や地域にとって、どうあるべきかを追求していく、緑と活気に溢れた石坂産業のような在り方を見つめるべきと感じた。

幹事代行

大宮精機労働組合

望月 大輔

1日目は、創業100年を迎えたクロネコヤマトを視察しました。今回視察した羽田クロノゲートとは羽田空港の近くにあるベースと言われる物流施設です。ベースとは支店などから集められた荷物を集結させ、全国各地へ仕分ける工場です。そして国際化した羽田空港をはじめ、陸、海、空すべての運送モードを利用できる立地にあることを活かし、「早く、正確に届けるための仕組み」と「洗浄」「印刷」「修理」など色々な付加価値機能を持っています。「洗浄」病院の手術などで使った道具などを洗浄「印刷」チラシやパンフレットなどの印刷「修理」家電製品の修理やバッテリー交換など運送会社の利点を最大に活用した事業をしている会社でした。

2日目は埼玉県にある石坂産業を視察しました。廃材処理プラント、リサイクル製品製造会社です。自分自身産廃業者のイメージは元々いいものではありませんでした。しかし行ってみると、整備された工場と周りには整備された自然が広がっており、とても驚かされました。石坂産業の代表取締役社長は石坂典子さんと言う女性の方で、女性ならではの見られる工場を意識していました。工場はとても綺麗に整備してあり、振動対策や運搬してきたトラックのタイヤの洗浄や廃棄物を仕分けるときにミストをかけながら作業をするなどホコリ対策もしっかりされていました。工場から一歩でると、くぬぎの森があります。くぬぎのもりとは地元住民と共有した森です。この日の近隣の家族などが遊びにきていました。アスレチックやカフェなどもあり石坂ファームで作ったオーガニック野菜などをいただけます。森の中に行くと、工場の音が響いてきてとても不思議な感覚でした。石坂産業で一番印象的だったのは、働く従業員さん達がみんな大きな声で挨拶をしてくれることです。きっと働く人の仕事に対するモチベーションが高い会社なんだと感心しました。

【まとめ】

クロネコヤマトと石坂産業の共通点はもともとの事業ならではの付加価値を付け新たな事業をしていたことです。それも未来を見据えた事業だっていうこと。どちらも自分の会社とは他業種なのでとても刺激を受けました。今回学んだ事を日々の生活に生かせたらなと思います。

視察レポート① ヤマトグループ羽田クロノゲート

富士宮を早朝に出発し羽田空港近くの「ヤマトグループ羽田クロノゲート」に到着しました。予約をすれば誰でも無料で見学ができるということで家族連れなども多く参加していました。30名ほどのグループで行動し、宅急便の仕組みやクロノゲートの機能など、ガイドさんの案内のもと、映像や実際の機械を見学し、正確でスピーディーな仕訳作業に驚かされました。また、宅配業務だけでなく医療器具の貸し出しや家電修理等、付加価値機能エリアには想像を超える機能が備わり参加者の皆さんも興味深々に見学をされていました。

巨大な施設の外観



創業100周年の歴史を展示



クロネコと一緒に・・・



国際化した羽田空港をはじめ、陸（JR）・海（港）・空（空港）すべての輸送モードを利用できる好立地を生かした物流施設は、様々な機能を集結し、多彩な付加価値機能をもった施設に進化していました。また、自然環境との調和や保育所の設置等、地域にも貢献する巨大な物流ターミナルとして地域との共生を目指していました。残念ながら施設内は写真撮影が禁止だった為、エントランスの様子しかありませんが、施設はとても整備され、見学コースも様々な工夫があり、とても分かりやすく学ぶことができました。最後には仕訳作業体験やお土産もいただきました。

視察レポート② 石坂産業・三富今昔村

2日目は埼玉県入間郡にある「石坂産業株式会社」の視察を行いました。

まずは会議室にて、清水様より、ほうれん草ダイオキシン問題・住民からの反対運動等、石坂産業の過去の暗い歴史について説明をしていただきました。産業廃棄物の中間処理施設として、収益源であった焼却業を捨てて、地域との共生の為、屋内の集積設備・徹底的なりサイクルに転換した過程や苦労話等をスライドを使い、わかりやすく解説していただきました。

歴史や施設概要をスライドで学習



配送トラックも資源ごとに整列



ごみ処理施設が一つの村として存在



産廃という「暗い・汚い・危険」というイメージを変えるため、廃棄物の処理を全天候型の屋内で行い騒音もカット、チリや埃もスプリンクラーで抑え、排気ガスを出さないよう重機は電動、産廃を運び空になったトラックは雨水でタイヤまで洗浄と、徹底的にクリーンな環境を完備し、とにかく施設の中を見てもらい知ってもらうこと・見せる経営・勿体ないを経済活動へシフトする考え方等、今までの産廃に対するイメージが大きく変わり、分別やリサイクルの重要性も改めて実感できました。また、減量化・リサイクル化率 98%という実績にも驚かされました。

全て屋内で作業！



見学コースは安全です

重機は電動！よく見ると配線が・・・



ガイドさんも熱心に解説してくれました

産廃施設でのランチとは思えません



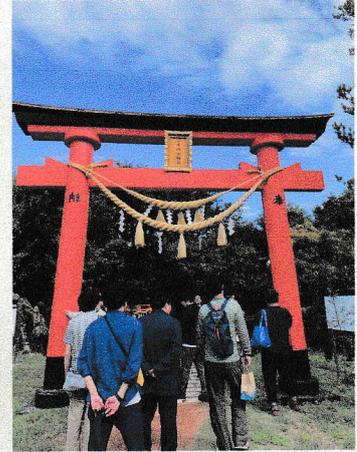
産廃施設で参拝??



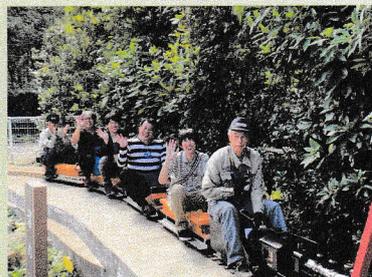
里山の管理も石坂産業の仕事です



なんだか楽しそうな施設も♪



予約でいっぱいの見学コース



石坂産業では環境事業を営む企業の使命として、地域の環境を守り歴史を伝える為、里山の保全活動も行っていました。地域住民の憩いの場として交流プラザや神社など一つの村として、様々な施設が運営されています。住民からの反対運動から、ここまでの施設になるまでの努力は大変なものだったと思います。この研修で得たことを総括し、SDGsをはじめ環境への配慮や地域との共生を目指して、これからの労福協活動に繋げていきたいと思っています。

ご参加いただきました役員の方々、大変お疲れ様でした。

(研修報告担当 事務局次長 萩原)